

□3月24日礼拝説教(短縮版)「だから私も神のもとに行ける」
マタイ27:45～56 隅野瞳牧師

私たちの罪を訴えて不利に陥れている者の力は絶えず働いていますが、それらの支配と権威の武装を解除して下さる…、それが「イエス・キリストの十字架の死と、復活の命にあずかる洗礼」なのです。つまり、キリストの名によって洗礼を受けたものは、この世に捕らわれたものではなく、神のものとなり、キリストの勝利の列に加えていただけるのです。

洗礼は、人が一旦罪に死ぬのですから「肉体的という意味ではなく、霊的な意味での葬式」を行うようなものです。しかし、その後復活するのです。パウロは、これを「キリストと共に葬られ、キリストと共に復活するのである」といっているのです。今日の説教題につけた通りです。イエス・キリストとの「共死共生」とでも言うべき出来事が洗礼において起こっているということです。これは考えて、分かることではありません。だから、人間が考えて分かるように、神が導きたもって「儀式としての洗礼」が教会に与えられたのだと私は理解します。私たちはキリストに出会い、罪から解放されるために洗礼を受けるのです。人間の目から見て「ただ水をかけられるにすぎない儀式」に見えるかもしれませんが、この洗礼を通して、私たちは根本から変えられるのです。

6節7節では、私たちは洗礼を受けることによって「キリストに結ばれた、霊的には一心同体なのだから」キリストに根を下ろして、日々キリストに似たものへと造り上げること日々を目指していこうとパウロは勧めています。そのためには「信仰をまもり、キリストのくださった救いに溢れるばかりに感謝して生きる」ことが大切だと教えます。洗礼を受けて、かなりの年数がたち、洗礼を受けた時の思いを忘れてしまいがちな私たちですが、この世的な価値観ではなく、「私の罪のために十字架にかかってくださったキリストと共に古い自分に死に、キリストと共に新しく生きる」その希望をしっかりと信じ、キリストの十字架による救いに絶えず感謝の思いを持って、まず今の受難節を歩んでまいりたいと願います。(終)